



## センター長に就任して

野田伸一（多島圏研究センター長）

本年4月に多島圏研究センター長に就任しました。多島圏研究センターは発足は1998年4月で、南太平洋研究センターから多島圏研究センターへ改組された時の検討と前センター長の努力により調査・研究活動の軌道が敷かれています。今後これを維持、発展させなければならない責任を重く受けとめている。センター兼務教官ならびに各委員会の先生方の手助けを得ながら頑張りたいと思っております。本年4月に宮崎において、南太平洋フォーラム（SPF）加盟国・地域首脳を招いて、「太平洋・島サミット」が開催された。太平洋・島サミットでは、太平洋島嶼国の持続可能な開発、リージョナル・グローバルな共通の課題、日・SPFパートナーシップの強化についての議論が行われ、日本と太平洋島嶼国家とのさらなる連携が唱えられた。多島圏研究センターの活動も日本による南太平洋に対する貢献の一環と位置付けられるものであろう。

昨年度、センターでは専任教官と学内兼務教官による総合研究プロジェクト「多島域における小島嶼の自律性」を開始した。これは鹿児島より南方の海域に散在する小型の島嶼群を対象とした学際的な研究プロジェクトで、小型の島嶼が不十分な人的・自然的資源の間

題を克服し、多様な自然環境や社会文化的な特性を維持しながら運営を行う方策を探ろうとするものである。昨年は本学の教育改善推進費（学長裁量経費）の交付を受けて、8学部2施設から47名の教官が参加してプロジェクトを行い、本年5月には研究成果発表会を開催した。プロジェクトでは水産学部練習船によるミクロネシア連邦ヤップ本島部の現地調査も実施し、その研究調査の成果も発表された（プログラムを5頁に掲載）。

本年度は、昨年に引き続き9月下旬にヤップ本島部の短期調査を実施した。これは、昨年度のヤップ現地調査に基づく研究成果の進み具合を、ヤップ側カウンターパートに報告するとともに、報告書原稿を首長会議に提出

### この号の内容

多島圏研究センター長に就任して	1
ヤップ島短期調査報告	2
定例研究会	4
海外出張・研修の記録	6
最近の出版物	8
センターの動向	8
お知らせ	9

すること、ヤップ本島部で追加調査をおこなうこと、さらに来年度に予定している水産学部練習船によるヤップ離島部での現地調査の準備交渉をすることが目的であった(詳細は2頁に掲載)。プロジェクトのもう一つの柱として国内の南西諸島での調査を計画している。この一環として、「多島域フォーラム：島に生きる」を企画し、10月1日に自主講座「島をかたるつどい」、10月8日に日本地理学会との共催による公開シンポジウム「海と陸のはざまでの『場所の力』—南九州と南の島々からの視座」を開催した。自主講座「島をかたるつどい」では、鹿児島県喜界町と沖縄県座間味村の現状や文化的・経済的振興の手段についての報告とヤップ現地調査の成果報告

を対置させて、海外と国内における小島嶼の自律性を複眼的に討議した。公開シンポジウム「海と陸のはざまでの『場所の力』—南九州と南の島々からの視座」では、多島域としての南西諸島の特性と小島嶼社会の諸問題をとりあげた。本年度交付された教育改善推進費(学長裁量経費)を活用して、南西諸島に住む人々と積極的に交流し、小島嶼の現実に即した調査研究を進めていく予定である。来年度以降も、センターではミクロネシアにおける多島域小島嶼の調査と国内南西諸島の調査を組み合わせることで、グローバルな意味での多島域の小島嶼の自律性を考察して行きたい。

## ヤップ本島部短期調査報告

桑原季雄(鹿児島大学法文学部)

多島圏センタープロジェクト委員会は本年度の南太平洋島嶼域における調査活動として、多島圏センター専任教官を中心としてヤップ本島部での滞在1週間程度の短期調査を行う計画を立て、9月16日(土)~25日(月)まで9泊10日の日程でヤップ島を訪れた。参加者は多島圏センター専任教官の野田伸一センター長と中野和敬教授、青山亨教授の他に、農学部から遠城道雄講師と法文から桑原季雄助教授の合計5名である。一行は9月16日早朝の飛行機で鹿児島空港を出発し、関西空港でコンチネンタルミクロネシア航空に乗り換え、グアム経由で翌17日(日)午前9時にヤップへ到着した。

今回の短期調査の目的は3つあった。1) 昨年度のヤップ現地調査に基づく研究成果の進み具合をヤップ側カウンターパートに報告するとともに、報告書原稿を首長会議(ピルン会議)に提出する。2) ヤップ本島部において、昨年度の調査のフォローアップを行う。3) 来年度予定している水産学部練習船によるヤッ

プ離島部での現地調査の準備交渉を行う。

第一の報告書原稿の提出に関しては、ヤップ到着の翌18日曜日に調査手続きの窓口機関である歴史保存局(HPO)を訪ね、副所長のジョン・タウン(John Tun)氏に、報告書原稿の冊子を2部手渡し、HPOを通して首長会議のメンバーにも内容を確認してもらうよう依頼した。海洋、医療、農業の各分野に関しては、ヤップ州政府資源開発局海洋資源管理課のアンディ(Andy Tafleichig)氏、コロニアの病院のジョン・ギルマタン(John Gilmatam)氏、農業試験場のカウンターパートにそれぞれ原稿を提出し内容のチェックを依頼した。そして20日(水)に首長会議を訪問して7人の首長に面会し、昨年のピルン会議との約束に基づいて持参した報告書原稿の内容のチェックと、10月末までに返送するよう直接口頭で依頼した。こうして、予定していたほぼすべてのカウンターパートや関係者に会うことができ、スムーズに目的を果たすことができた。

第二の追跡調査に関しては、観光局やランド

オフィス、マドリッチ、農業試験場、タロパッチ等々、それぞれにインフォーマントやカウンターパートを訪ね、インタビューやサンプル採取や地図の入手など、各々その目的を果たすことができた。

第三の来年度の調査の準備交渉に関しては、特に離島のユリシー環礁での調査の可能性を探るため、関係者に直接面会して協力を要請し、調査手続きに関する情報を入手した。特に離島の首長会議（タモル会議）の重要メンバーであるジョー（Joe B. Tiucheimal）氏や同じく離島出身の上述のアンディ氏、そして水先案内人のキャプテン・シングル（Captain Serphen Single）氏に面会し、ユリシー環礁のモグモグ島での調査の可能性や手続き、離島への操船に関する具体的な手続きや方法その他の詳しい情報を入手できた。

以上、今回の短期調査によって報告書の年内の出版と来年度のヤップ離島部での学術調査

の手続きに関しては一応の目途をつけることができたといえる。また、今回偶然にも、センターの元専任教官で現宇都宮大学の柄木田康之氏やヤップ本島で現地調査中の大阪大学院生の則竹賢氏とヤップで一緒になり、多くの貴重な情報や関係者を教えていただけたことは非常に幸運であった。

およそ1年ぶりに訪れたヤップ島であったが、目立った変化といえば新しくリゾートホテルがオープンしたことや、日本人とアメリカ人のボランティアの顔ぶれが若干入れ代わっていたことぐらいであった。しかし、HPOの所長のジョン・サーガン（John Tharngan）氏が、我々が到着する1週間前に急逝し、急遽葬儀に参列することになったことはあまりにも予期せぬ出来事であった。ここに、あらためて氏の冥福をお祈りして本報告を閉じることにしたい。



石貨の運搬状況を示すストリートボードの前にて  
（左より、桑原、中野、遠城、野田、青山）

---

## 多島圏研究センター研究会発表要旨

---

第 13 回 2000 年 4 月 24 日

---

A Caribbean Experience: Diverse History,  
Culture and People with Emphasis on  
Barbados

Anthony Kellman  
(バルバドス農業地域振興省)

Barbados is one of more than 7000 islands which stretches from the coast of Florida to the northern edge of Venezuela making up the Caribbean. It was first inhabited by Amerindians namely the Arawaks and Caribs before the Europeans arrived in 1627. The name Barbados is said to be derived from the Portuguese word "Los Barbados". It means the bearded ones and came from the numerous bearded fig trees (*Ficus citrifolia*) found on the island at that time.

The first settlement on Barbados was established by the English in 1627 and the island have remained traditionally British. Agriculture has always played a major role in the economic development of the island and no crop has succeeded sugar cane. It was introduced into Barbados in 1637 after crops such as tobacco, cotton, cassava and maize proved unprofitable to the early settlers. The Barbados economy developed with the development of the sugar industry and this is quite evident throughout the island.

Today the economy is not so dependent on agriculture and sugar as tourism has taken over providing around 50% of the gross domestic product. Other industries providing economic benefits are manufacturing, light industries and financial services. Agriculture along with fishing occupies 15% of the labor force and it is as diversified as the economy. Along with sugar cane from which sugar and rum are exported, other crops

such as Sea Island cotton, yams, sweet potatoes and a variety of fruits and vegetables are currently being produced on the island.

Barbados, having a size of 432sq km and a population of 264 thousand people gained independence in 1966. It has since gained the reputation as one of the most developed of the developing nations. Boasting a 98% literacy rate, an extensive transport and telecommunication system it is considered the hub of the Caribbean Islands.

第 14 回 2000 年 5 月 27 日

---

総合研究プロジェクト  
「多島域における小島嶼の自律性」  
研究成果報告会

プログラムは 5 頁に掲載

第 15 回 2000 年 6 月 26 日

---

West Papua in the New Millennium:  
Otonomi, Merdeka or Chaos?  
Peter King  
(鹿児島大学多島圏研究センター)

The case of East Timor shows that it is indeed possible for disenchanted provinces to exit the Indonesian unitary state. In Timor 24 years of terrible abuses by the Indonesian state and the military and costly struggle by the people led to a climactic army-backed militia campaign of terror and destruction, but there is now at least a fair prospect of peace and independence under a United Nations guarantee.

Clearly the reformasi of the interregnum of President Habibie in 1998/9 did not mollify the East Timorese who chose independence when given the chance in the August referendum of last

year. Will the West Papuans, with the East Timor example before them, and a history of almost equally terrible and much longer exploitation and human rights abuse behind them, now be satisfied by President Gus Dur's promises—promises of protecting human rights and granting special autonomy and ensuring a more just division of the revenues generated by exploitation of Papua's rich resources?

On the other hand, would or could even a fully reformed and effectively democratic Indonesian government yield to the Papuan demand for independence?

The paper will argue that the "Indonesian" project has failed as decisively in West Papua as it did in East Timor, and that in order to avoid another Timor Indonesia will have to yield to the logic of the record of its own fatal abuses and failures among the Papuans, many of which are continuing. In other words independence will have to be conceded. The paper argues that this will prove the least costly outcome for all concerned, including the United Nations, with its history of conniving in the fraudulent Act of Free Choice in 1969, which delivered an unwilling Papuan people to "legitimate" annexation by Indonesia.

#### 総合研究プロジェクト「多島域における小島嶼の自律性」研究成果報告会プログラム

日時：平成12年5月27日（土）9時00分～16時30分

場所：鹿児島大学大学院連合農学研究科棟3階会議室

#### □頭発表

- 9:15- 9:30 青山 亨（多島研）文化的アイデンティティのシンボルとしての「ヤップ・デー」
- 9:30- 9:45 桑原季雄（法文学部）ヤップ島における観光化と伝統文化
- 9:45-10:00 田島康弘（教育学部）ヤップ本島における離島人の居住地について
- 10:00-10:15 土田充義（工学部）ヤップ島の民家—その伝統技術の継承と技術の特異性—
- 10:30-10:45 井上晃男（多島研）・ Andy Taifileichig (Yap State Government) Current Status of Customary and Traditional Regulations for Marine Resources in Yap State, FSM
- 10:45-11:00 根建心具・重吉亮一・前田友和（理学部）・井上晃男（多島研）・嶋田起宣・東政能・東隆文・幅野明正（水産学部）・石黒悦爾（農学部）・八田明夫（教育学部）ヤップ島の形成史と地質環境
- 11:00-11:15 石黒悦爾・立野勝己・川勝基・平山慎作・D.A. Wahid・金剛仙太郎（農学部）・嶋田起宣・東政能・幅野明正・東隆文・菊川浩行（水産学部）・森山雅雄（長崎大学工学部）・E.T. Kanematsu (U. of Georgia)・A. Taifileichig・P.P. Peckalibe・T. Sulog・F. Liyeg (Yap State Government) 衛星データによるヤップ島の環境モニタリング—沿岸部の水深推定と土地被覆分類—
- 11:15-11:30 八田明夫（教育学部）ヤップ島における浅海性有孔虫群集調査とヤップ州の教員養成・理科教育調査
- 13:00-15:00 ポスター発表
- 15:00-15:15 田浦 悟（遺伝子実験施設）・安部 匡（農学部）ヤップ島におけるサツマイモ、ヤマイモおよびタロイモの農業生産とその遺伝資源
- 15:15-15:30 中野和敬（多島研）ヤップ島食糧事情

15:30-15:45 野田伸一 (多島研)・吉家清貴 (医学部)・荻野和正 (大正製薬) ヤップにおける  
公衆衛生学的調査

15:45-16:00 遠城道雄 (農学部) ヤップ島における農業生産

16:00-16:15 坂巻祥孝 (農学部) ヤップ島の農業病虫害と持続的農業

### ポスター発表

P1 新田栄治 (法文学部) 東南アジア小島嶼への文明の伝播

P2 徳丸亜木 (法文学部) 南西諸島島嶼社会における民俗宗教の変容過程について  
—奄美大島名瀬市小湊地区を例として—

P3 大木公彦 (理学部) 名瀬湾から採取したコア中の底生有孔虫群集の垂直分布から推定される  
ネオテクトニクス

P4 北村良介 (工学部) 南西諸島におけるサンゴ礫混じり土の力学特性

P5 森脇 広 (法文学部) 屋久島における完新世の海岸段丘と隆起

P6 市川 洋・嶋田起宣・東 政能・幅野明正・東 隆文 (水産学部) 西部北太平洋亜熱帯域表の  
流れと海洋構造

P7 野呂忠秀・嶋田起宣・東 政能・幅野明正・東 隆文 (水産学部)・井上晃男 (多島研)  
根建心具 (理学部) ヤップ島沿岸の水質環境

P8 塚原潤三 (理学部) 島嶼域におけるナガウニの種分化について

P9 鈴木廣志 (水産学部) 陸水産甲殻類相から見た竹島・硫黄島・黒島 (三島村) の形成過程

P10 衛藤威臣 (農学部) ミクロネシアにおける食用植物と有毒・忌避植物 (1) ヤップの有毒植物

P11 津田勝男 (農学部) 小島嶼における農林業害虫の生態および天敵微生物の利用

P12 中島秀喜 (歯学部) 熱帯フルーツ、フェイジョア果皮の生理活性

P13 竹中正巳 (歯学部) 台湾ブヌン (Bunun) 族のシャベル型切歯

P14 浜名克己 (農学部) 熱帯起原のアルボウイルスによる牛の先天異常

P15 北野元生 (歯学部)・他谷 康・毛利 元彦 (海洋科学技術センター)・川島 真人 (川島整形  
外科病院) Dysbaric Osteonecrosis in the Femur of an Experimental Beagle Dog

---

## 多島圏研究センター専任・兼務教官の海外出張及び研修記録一覧表 (2000年2月~2000年8月)

---

所属	氏名	期間	国名	用務
多島研	井上晃男	2000.2.1 - 2.22	オーストラリア・ ニュージーランド	共同研究打ち合わせおよび資料収集
農学部	石畑清武	2000.2.12 - 2.19	中華民国 (台湾)	熱帯・亜熱帯果樹園類の栽培大系調査
工学部	行田尚義	2000.2.18 - 2.25	オーストラリア	画像関係技術打ち合わせOWLS6出席
理学部	鈴木英治	2000.2.24 - 3.5	マレーシア	野外生態実習の指導
法文学部	山田 誠	2000.2.25 - 9.29	アメリカ合衆国	米国の高齢者介護政策についての研究
多島研	青山 亨	2000.2.26 - 3.19	インドネシア共和 国・パプアニューギ ニア・フィジー	地球温暖化による南太平洋低島の水没が及ぼ す社会環境変化に関する調査研究
農学部	萬田正治	2000.3.13 - 3.23	中華人民共和国	合鴨農法の技術指導

所属	氏名	期間	国名	用務
理学部	鈴木英治	2000.3.20 - 4.9	インドネシア共和国	森林生態学に係る技術指導
法文学部	新田栄治	2000.3.23 - 3.28	カンボジア	アンコール地域所在遺跡群の考古学的調査
法文学部	新田栄治	2000.4.5 - 4.8	中華民国(台湾)	中央研究院歴史語言研究所主催「東南アジア考古学ワークショップ」の招待講演
法文学部	黒田景子	2000.4.30 - 5.9	タイ・マレーシア	タイ国バンコク市における京都大学東南アジア研究センター事務所における研究打ち合わせおよび共同調査補助、マレーシア北部ケダ州における村落調査
法文学部	原口 泉	2000.5.1 - 5.7	中華人民共和国	中国雲南省昆明・景洪両地区歴史民俗史料調査
水産学部	鈴木廣志	2000.5.13 - 5.21	大韓民国	潮間帯干潟域の伝統的漁業に関する共同研究
農学部	中西良孝	2000.5.14 - 5.22	スイス	家山羊の品種特性とその利用価値に関する研究
工学部	北村良介	2000.5.16 - 5.21	シンガポール	Asian Conference on Unsaturated Soils (不飽和土に関するアジア会議) 出席
水産学部	東 隆文	2000.5.26 - 6.5	大韓民国	漁業演習・航海実習
水産学部	東 政能	2000.5.26 - 6.5	大韓民国	漁業演習・航海実習
水産学部	市川 洋	2000.6.7 - 6.10	大韓民国	ワークショップ参加および海況観測結果の情報交換
医学部	吉家清貴	2000.7.10 - 2001.5.9	アメリカ合衆国	平成12年度文部省在外研究員として研究のため
農学部	坂巻祥孝	2000.7.18 - 7.25	大韓民国	日韓鱗翅類昆虫比較合同調査
教育学部	神田嘉延	2000.7.23 - 8.6	ブラジル	国際農村社会学会においての発表および資料収集
工学部	土田充義	2000.7.24 - 7.30	中華人民共和国	国際シンポジウム(中国近代建築史国際検討会)出席、海南島の民家調査、学術交流および漢民族の民家調査
理学部	根建心具	2000.7.26 - 8.11	アメリカ合衆国	「原始地球の大気環境」に関する共同研究
理学部	鈴木英治	2000.7.30 - 8.20	ブルネイ	ボルネオ島熱帯雨林の多様性維持機構の研究
法文学部	森脇 広	2000.8.1 - 2001.5.31	ニュージーランド・カナダ	文部省在外研究員「第四紀地形発達史と火山灰層編年比較研究」
水産学部	松岡達郎	2000.8.6 - 8.13	アメリカ合衆国	「International Marine Debris Conference On Derelict Fishing Gear and the Ocean Environment」出席
水産学部	幅野明正	2000.8.8 - 9.30	インドネシア共和国	乗船実習
農学部	萬田正治	2000.8.12 - 8.15	中華人民共和国	合鴨農法の技術指導
教育学部	久保田康裕	2000.8.13 - 8.27	フィンランド・ロシア	森林植生調査と研究資料の収集
教育学部	神田嘉延	2000.8.16 - 8.24	ベトナム	ベトナムの環境問題と地域の自立発展に関する資料収集
理学部	大塚裕之	2000.8.1 - 8.28	インドネシア共和国	国際シンポジウムへの参加および古生物資料収集
多島研	野田伸一	2000.8.21 - 8.30	インドネシア共和国	熱帯地域における感染症に関する研究

---

## 多島圏研究センターの出版物

---

南太平洋研究 第20巻2号(2000)

Muhammad ASHFAQ, Riaz UI HAQ, Muhammad SALEEM and Amjad ALI: Effect of Antagonistic Microbial Application on the Population Density of Black Thrips, *Caliothrips indicus* BAGNALL and Yield of Mashbean, *Vigna mungo* L.

Naoyoshi NAMEDA: Apparent Magnitude of a Visible Star under the Hazard of Light Glare Pollution

Machiko MURAKAMI, Katuo TSUDA and Kanetosi KUSIGEMATI: Biological Studies of the Pests Feeding on *Gynura bicolor* (WILLD.) DC. (Asteraceae). III. List of Feeding Species, Seasonal Abundance and Damage-Occurrence in Kagoshima Prefecture in 1998 and 1999

南太平洋研究 第21巻1号(2000)

Machiko MURAKAMI and Kanetosi KUSIGEMATI: Biological Studies of *Nyctemera adversata* (SCHALLE) (Lepidoptera, Arctiidae)

Akira NAGATOMI, Nagahisa TAMAKI and Neal L. EVENHUIS: A New *Systropus* from Taiwan and Japan (Diptera, Bombyliidae)

Mahendra REDDY: The Economy, National Budget and Development in Fiji: A Case of Keynesian Economics, Neo-liberalism and Economic Gradualism

Mahendra REDDY: Natural Disasters and the Island Economies: An Examination of the Economic Cost of Natural Disasters in Fiji

---

## 多島圏研究センターの動向

---

平成12年度外国人客員研究員

平成12年度外国人客員研究員としてオーストラリアのシドニー大学行政府学科の教授 King P. Geoffrey (キング・P・ジェフリー)氏が5月に着任しました。招聘期間は来年3月までです。



## 新任教官

平成 12 年 10 月に文部教官助教授として河合溪氏が赴任しました。多島域環境研究領域の第 1 課題：多島域における人間と自然との相互作用を担当します。専門は海洋生物学です。



---

## お知らせ

---

### 図書館大型コレクション：世界の島の文化に関するコレクション

鹿児島大学附属図書館にニュージーランドのウェリントン在住の英国外務省高等弁務次官 Iain Orr 氏が約 30 年間に亘って収集した世界の島嶼とその住民に関する 1,874 点を数えるコレクションが入りました。内容はほとんどが民族学、人類学に関する本などの英語による文献であり、対象となる島嶼はほぼ全世界に及ぶ約 400 を数える。それらの島嶼のうち、多島圏研究センターが特に関心を抱いているアジア太平洋熱帯・亜熱帯多島域に関する文献が、収集者の故郷であるスコットランド周辺島嶼と並んでとりわけ多い。

### 第 15 回「大学と科学」公開シンポジウム「東南アジア考古学最前線」

多島圏研究センター専任教官の青山亨教授と兼務教官の新田栄治教授の 2 名が、来年福岡で開催される第 15 回「大学と科学」公開シンポジウム「東南アジア考古学最前線」に参加します。東南アジア考古学の最新の状況を知っていただける機会です。多くの方のご参集を願っています。会期は 2001 年 2 月 3 日（土）4 日（日）、場所はイムズホール（福岡市中央区天神 1-7-11 イムズ 9F）です。参加には申し込みが必要です。多島圏研究センターにも資料と申込書があります。詳細は <http://www.kuba.co.jp/science/0203/index.html> をご覧下さい。

---

多島研だより No. 39 平成 12 年 11 月 30 日発行

発行：鹿児島大学多島圏研究センター

〒890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24

電話 099 (285) 7394 ファクシミリ 099 (285) 6197

電子メール [tatoken@kuasmail.kuas.kagoshima-u.ac.jp](mailto:tatoken@kuasmail.kuas.kagoshima-u.ac.jp)

WWW <http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/kurcsp/>